

## 5-9 赤道ギニア

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

(1) 一次エネルギー供給量 (2014年) : na

【参考】2008年:23.36百万toe (日本の4.7%)

(2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2014年) : na

【参考】2008年:18.84toe (日本の6.2倍)

(3) エネルギー自給率 (2014年) : na

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量 (2014年) : na

【参考】2008年:4.6百万CO<sub>2</sub>換算ton (日本の0.4%)

(5) 一人当たりエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量 (2014年) : na

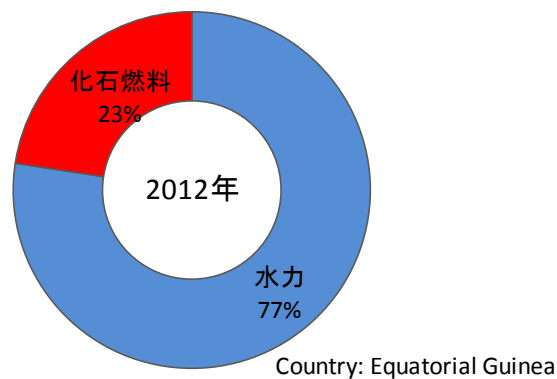
【参考】2008年:3.59CO<sub>2</sub>換算ton (日本の39.9%)

(6) エネルギー源別可採年数 (2015年末) : 原油10.4年

#### 一次エネルギー供給構成 (2014年)

na

#### 発電設備容量構成 (2012年)



(出所) CIA, The World Factbook

## 2. エネルギー政策のポイント

### (1) エネルギー政策担当機関

- 赤道ギニアのエネルギー担当機関は、鉱業産業エネルギー省 (Ministry of Mines, Industry and Energy) である。

### (2) 基本政策

- 赤道ギニアは、エネルギー開発を国家発展の重要な施策と位置づけており、積極的に外資を誘致している。外資企業の石油・ガス分野への参入に対しては生産分与協定方式を採用している。また国内企業のプレゼンスを高めるため、外資による全ての石油・天然ガスの投資に対し、探鉱段階で赤道ギニアの会社が最低 20%のシェアを持つように設定されている。

### (3) 最近の動向

- 2012年6月、Block-Rを開発中のOphir社はTonel-1井から800Bcfの埋蔵量と見られるガス層を発見した。同社は、Block Rのガスを原料に浮体式LNG生産設備(FLNG)での液化事業参入を検討しており、2015年2月にGolar LNG社を中流部門のパートナーとして指名した。Golar LNGはFLNG船の提供とFLNG船を使用した液化加工業務を行う。また、2015年7月、ガス生産設備などの上流部門の基本設計(FEED)業務をMcDermott Marine Constructionなどが落札したと発表した。FEEDは2016年第一四半期に完了し、2016年中ごろに最終投資判断(FID)を行い、2019年の生産開始を目指している。
- 2014年6月、鉱業産業エネルギー省は2014年の入札ラウンドを発表した。EG06からEG20までの15鉱区が対象。
- 2015年の原油生産量は29万bblでここ数年持ち直しつつあるが、2005年に記録したピーク36万bblには及ばない。従来米国は主要な原油輸出先の一つで2012年は平均4.1万b/dを輸出したが、2014年は0.4万b/dまで減少した。
- 2017年1月、赤道ギニアはOPECへの加盟申請を行った。

## 3. 日本とエネルギー分野における関係

- 2015年の我が国の赤道ギニアからの原油輸入はゼロであった。
- 2015年の我が国の赤道ギニアからのLNG輸入量は39万tonであった。
- 天然ガスについては、2007年5月に開始したEGLNGプロジェクトにおいて、三井物産と丸紅がそれぞれ8.5%、6.5%のシェアを持っており、BG Group(現Shell)と17年間の供給契約を結んでいる。

## 2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Equatorial Guinea

(2014年)

(1) 一次エネルギー供給量 (2008年)		23.36 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給 (2008年)		18.84 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		- toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		- %
(5) エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 (2008年)		4.6 百万CO <sub>2</sub> 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 (2008年)		3.59 CO <sub>2</sub> 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	- %
	石油	- %
	天然ガス	- %
	原子力	- %
	水力	- %
	再生可能エネルギー等	- %
(8) エネルギーの輸入依存度		- %
(9) 石油の輸入依存度		- %
(10) 輸入原油の中東依存度		- %
(11) 天然ガスの輸出先	第1位	シンガポール (40%)
	第2位	日本 (22%)
	第3位	中国 (20%)

(出所) (11) : Natural Gas Information 2016, IEA